

学力向上に効果のある取組事例

別府市立山の手小学校

⑰校内研修などによる日々の授業改善

取組の具体①

○生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

- ・1学期: 毎時間自己決定の場をつくる。自分の考えを決める。
- ・2・3学期: 考えを「伝える・聴く」認め合ったり新しい考えをつくったりする。
- ・考えの広がりや深まりをめざした、ペア・グループ学習の位置づけ。

○「努力を要する状況の児童」への個に応じた支援。

- ・一人ひとりの困りを見つける努力。
- ・授業で見つけた個への支援方法の共有。

考えを広げたり深めたりする
ペア・グループ学習の様子



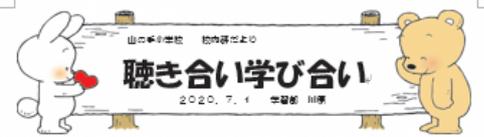
取組の具体②

○学年部ごとに学年部研を年1回実施

- ・学年部研は同じ教科、単元で行い、聴き合い学び合う教師集団づくり。いいなと思うこと、自分のクラスに有効なことを真似する。進んで尋ねたり、紹介したりする。

○振り返りシートによる月1回の授業の振り返り

- ・「校内研だより」で進捗状況や変化を共有し、短期で組織的にPDCAサイクルを回す。

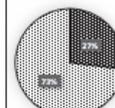


毎学期、「自己決定の場を位置づける」「努力を要する状況の子どものための個別の場を設ける」を重点的に授業づくり、振り返りを行います。自分で決めた7月のめざす授業改善について共有を取り組んでいます。

6月自分の授業ふいかえりの報告

「2・4で良かった」「1・2で良かった」

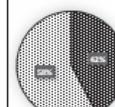
6月(自己決定の場)



- 目標通りでない場面も出てきた。一対一・個別・OKとコミュニケーションがすすむので、自分の考えが持てるようになってきた。
- 自分の考えや自分のことについて得意げられる話し合いの時間を設けた。結果として共有できたりして、自己決定の場を位置づけることができた。
- 方法やOKサイン方式などで授業に活用できた。作った短冊や名前カードで授業に活用した。
- △今年実施で良かった。友だちの考え聞いて共有するという習慣が定着していると感じ、自己決定の場はこれだね。

「2・4で良かった」「1・2で良かった」

6月(努力を要する子への手立て)



- L型の子供たちもいる授業では、自分で決める場面を設けて授業時間の枠に見え、ヒントをあげる。
- 毎学期、実習授業時の授業改善目標を設定した。
- 九九カード、ひらがな・カタカナ九九カード、その子に合わせた教材・授業を通して授業した。
- OKサインカードの活用を目標に持たせている。
- 個別指導ができたが、教師一人では手が足りなく、教員同士は協力。
- △教科によっては自分が授業の様子を見ることができていた。共有できるのがクラスのみんなの授業改善にしたい。

※今後の予定(7月・8月)

- 8月(20)15:40~ 全体研修(単元公開) 8月12日(20) 異科「女子学芸」
- 45日(20)2校時全体研 15:40~事後研
- 29日(20)15:40~ 備忘録報告会